

## 「高知県緑の環境会議」設立趣意書

緑は、平和と豊かさの象徴です。

森林は、生命と文化の母胎であります。

いま、その緑と森林の破壊が地球規模で進み、親類は未曾有の危機にさらされています。産業革命以来、近代工業の発展は飛躍的に生産力を増大させましたが、その一方で精神文明の荒廃をもたらしました。人間と自然の尊厳に対する配慮を欠き、物質的繁栄を追求するに急であつた結果にほかなりません。

世界の森林・緑は今まさに激しい勢いで消滅しており、砂漠化も急速に進行しております。熱帯雨林地域では毎年1100万ヘクタールもの森林が破壊されつづけ、工業化の進んだ地域でも酸性雨や放射能雨により、森林や湖沼水をはじめとする生態系の破壊が深刻化しており、おびただしい数の種の消滅、温室効果による気象異変、紫外線強度の増大等、自然環境の悪化が地球規模で破局的に進行しております。

日本でも都市化と乱開発によって森林・緑は破壊されつづけ、“都市砂漠”といわれるような潤いのない都市が各地に出現しております。また、かつては秘境とされていた山の奥深くにまで森林開発や観光開発の手が伸び、乱開発によって貴重な原生林や国土が破壊され、「原生流域」は森林面積のわずか1%にまで減少し、自然破壊や災害時の環境問題も各地で多発しました。

一方、郷土の山間地では木炭生産が崩壊した後、農林家の手で活発に植林が行われ、今日、一見豊かな森林が育成されているように見えますが、そうした植林地においても、山村の激しい過疎化と深刻な林業危機のもとで森林・緑を守り育てていく担い手が失われ、森林管理が十分になされないまま、新たな森林・緑の荒廃問題に直面しております。

21世紀をまじかに迎えようとするとき、美しい自然と、調和のとれた豊かな環境を守り育てることは、今に生きるものの後世に対する最大の責務であり、大切な人類的課題であります。

価値観の転換を求め、生態系と生命をよみがえらせるため、緑と森林を守り育て、自然との共生の中に最適な環境をつくり、また、人間回復と新たな文明の創造をも追求すべく、広く英知の結集を願うため、ここに「高知県緑の環境会議」を設立するものであります。

ふるって御参加下さいますよう、お願いいたします。

1987年2月20日